

日本陸上競技連盟からのお知らせ

目 次

■活動報告

第233回 ワールドアスレティックス (WA) カウンシル会議報告

第233回ワールドアスレティックス(世界陸連)カウンシル会議が2023年12月7日～8日にモナコで開催され、カウンシルメンバーとして参加いたしました。

2023年度 全国指導者養成・普及育成担当者会議報告

2023年12月15日(金)に2023年度全国指導者養成・普及育成担当者会議を、WEB会議(zoom)システムを用いて開催いたしました。

第50回 日本陸上競技連盟トレーナー研修会開催報告

第50回 日本陸上競技連盟トレーナー研修会を2024年1月8日(月・祝)に、オンラインで開催いたしました。

■日本陸連栄養セミナー 2024開催要項

日本陸上競技連盟医事委員会は、第5回目の栄養セミナー(オンライン)を開催いたします。高校生・大学生選手はもちろんのこと、指導者、医科学スタッフ、ご家族など、選手を支える方にも広くお集まりいただきたく、皆さまのご参加をお待ちしております。

■大会観戦ガイド

第107回 日本陸上競技選手権大会・20km 競歩

兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会 第35回 U20選抜競歩大会

第107回 日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

第39回 U20日本陸上競技選手権大会クロスカントリー競走

兼 ベオグラード2024世界クロスカントリー選手権大会日本代表選手選考会

名古屋ウィメンズマラソン2024

兼JMCシリーズ・GS 兼MGCファイナルチャレンジ(女子)

～パリ2024オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会～

■事務局からのお知らせ

能登半島地震で被害に遭われた皆様へ/本連盟の対応について

日本陸上競技連盟アスリート委員会「能登半島地震復興支援チャリティーオークション」の開催について

能登半島地震による被災地・被災者への義援金の募集についてお願い

JMCシリーズⅢアワード開催! 3代目のシリーズチャンピオンは誰の手に!?

information

- ・個人情報の共同利用について

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16577/>



- ・WRK対象競技会/広告規程について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/technical/>



- ・陸上競技場、長距離競走路の認定について

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/shisetsu/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2023年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/15943/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2024年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/16334/>



- ・代表選手派遣大会選考要項 2025年度

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/17671/>



- ・アンチドーピング/鉄剤注射の防止

<https://www.jaaf.or.jp/about/resist/medical/>



第233回 ワールドアスレティックス (WA) カウンシル会議報告

日本陸上競技連盟副会長 有森 裕子

第233回ワールドアスレティックス（世界陸連）カウンシル会議が2023年12月7日～8日にモナコで開催され、カウンシルメンバーとして参加した。同会議の概要は以下の通りである。

1. 2023年の振り返り

世界陸上競技選手権ブダペスト大会は大きな成功をおさめ、陸上のグローバル価値向上に繋がった。各セッションのチケット販売率は95%を超え、120か国で40万枚以上のチケットが売れ、競技場は常に熱気に包まれていた。街中は大会プロモーションの装飾で埋め尽くされ、ファンゾーンには20万人以上が参加し、陸上の楽しさを体感していた。

同大会では様々な研究調査が行われたので、そのデータを参考にして、陸上は革新的なアプローチをとり、イノベーションを目指していく。

組織としては、ブダペストでの総会選挙で2027年の達成目標としていたジェンダーバランスが成し遂げられ、最も力のあるカウンシルグループが誕生した。2024年は今後の陸上界を見据えて重要な決定を行っていく年であり、10年後に振り返った時に、今の活動が陸上競技の未来を支え、その人気と価値を大きく加速させたと評価出来る様に活動を推進していく。

2. WA主催大会 (WAS イベント)

- ① 2024年世界チーム競歩選手権（4月21日、トルコ・アンタリア）のタイムテーブルが承認された。早朝7時のU20男子、女子と始まり、シニアの女子、男子、最後にマラソン競歩混合リレーが行われる。パリに繋がる重要な大会となる。
- ② 2024年U20世界選手権（8月27日～31日、リマ・ベルー）のタイムテーブルが承認された。過去の6日間開催から5日間開催に短縮され、セッション数は11から9に変更になった。
- ③ 2025年にアメリカ・サンディエゴで開催される世界ロードランニング選手権の日程は2025年9月26日～28日に決定した。
- ④ 2026年にフロリダ・タラハッセで開催される世界クロスカントリー選手権の日程は2026年1月10日に行われる事になり、今後、世界クロスカントリー選手権の開催時期を検討していく。
- ⑤ 2024年にバハマで開催される世界リレーの結果により14か国がパリオリンピックへの出場権を得るが、バハマ大会での決勝進出上位8チームはパリオリンピックでのレーンのシード権を得る事が出来る。
- ⑥ 全てのWAS大会及びオリンピックにおいて、4×400m混合リレーの選手交代は1名しか認められない。
- ⑦ パリオリンピックのWA派遣競技役員が決定し、その構成に当たってはジェンダーバランスが掲げられた。2024年までに拡充されるWA国際審判や国際競歩審判のパネルによって、更に各大会に於けるジェンダーとエリアバランスが推進される事になる。

3. WA規則と規定の変更

① テクニカルルール

TR54.4.1の改正が承認され、全てのワールドランニングコンペティションにおいて（国内大会も含む）、競歩審判長はレッド

カードの有無にかかわらず、ラスト100mで選手を失格に出来る権限を持つ事になる。

② アンチ・ドーピングルール

各国連盟はドーピングのリスクによってカテゴリーが分かれているが、ドーピングリスクが最も高いと分類されているカテゴリーAの国に対して適用されているアンチ・ドーピング規則第15条を改定し強化する。主要大会前の最低検査要件を厳格化し、必要とされる3回の検査の内、最初の競技会外検査は遅くとも大会12週間前に実施され、必要な検査はファイナルエントリー前に完了していなければならない事になる。

③トラック&フィールド施設マニュアル

本マニュアルではトラックサーフェスの厚さに関する要件が定められているが、競技される種目の場所によって摩耗状況が違う事が判明している事から、インフィールドで負荷が高い場所においては、ブランドやモデルが同じであれば、トラックとは違う強度や耐久性の素材の敷設も認める。

4. ヒューマンライツポリシー

国際宣言されている人権戦略に同調する形でヒューマンライツポリシーが承認され、WAの人権戦略に対するコミットメントが再確認された。陸上競技に参加する全ての関係者の尊厳と価値を認め、より良い社会を実現するためにスポーツが持つ影響力を活用して変化を促す事を目的としており、スポーツガバナンスにおける平等、機会均等、尊厳、公平性の促進が掲げられている。人権戦略はWAのサステナビリティポリシーやセーフガーディングポリシーと並んで、グッドガバナンスに関する重要な規則・規定を構成する。

5. セーフガーディングポリシー

セーフガーディングはWAにとっては重要な課題であり、各エリア、各国連盟、WAS大会がセーフガーディングポリシーを導入し、教育を行っている様にeラーニングプラットフォームを提供していく。

6. ジェンダーダイバースアスリート

性的多様な選手に関するワーキンググループは専門家を含むメンバーで構成された諮問機関であり、ジェンダーダイバースアスリートに関するスポーツ、法律、科学、社会の動向を把握する事を任務とする。トランスジェンダー選手やその他のジェンダーダイバースアスリートがどのような形で競技に参加出来るのか、トランスジェンダーに関する規定がどのような影響を与えているのか、GHT治療（性別確認ホルモン治療）にはどのような影響があるのか等の調査を行い、2024年末までに報告を行う。

7. 国際競技会に於けるロシア・ベラルーシのステータス

ワーキンググループを立ち上げ、両国選手、関係者に対する制裁措置が適切であるかどうかを協議する役割を担う一方、WAS大会やオリンピックへの参加を認めるために必要な条件や基準を検討し、カウンシルに報告する。

8. 世界陸上競技選手権東京大会

2023年11月に実施されたWAサイトビジットの報告が行われた。進捗状況が共有された上で、WAとLOCの確固たる協力体制による大会準備推進が確認された。

2023年度 全国指導者養成・普及育成担当者会議 報告

指導者養成委員長 山本 浩

日時：2023年12月15日（金）17：00～20：30

場所：指導者養成委員会本部メンバー/味の素ナショナルトレーニングセンター
全国担当者/WEB会議（ZOOM）

《出席者》

山本 浩委員長、沼澤 秀雄副委員長、桜井 智野風副委員長、岸 政智指導者養成・普及ディレクター、森 健一ディレクター兼委員会幹事、秋元 恵美委員、佐藤 孝夫委員、泉水 朝宏委員、徳田 由美子委員、磯貝 美奈子強化部部长、田中 悠二郎指導者養成課長、西村 和樹指導者養成課員（以上N.T.Cから参加）
渡部 慶子指導者養成課員、指導者養成委員、都道府県陸上競技協会指導者養成、普及育成担当者（以上各地からオンライン参加）
進行：ディレクター兼指導者養成委員会幹事 森 健一

1. 日本陸連指導者養成および普及育成に関して

指導者養成委員長 山本 浩

「この会議は、日本陸上競技連盟の指導者養成委員会が行っていること、行おうとしていることを報告するだけではなく、みなさまの周りの子どもたち、あるいは選手たちのありようを、私どもに教えていただく貴重な機会だと考えています。様々な変化のなかでスポーツの魅力を知るみなさまが、その楽しさをしっかりと子供たちに伝え、なおかつ競技生活を続けられるように手を差し伸べていく。いま持っている知識を他の指導者と共有しながら、貪欲に先へ進んでいきたいと思います。」

2. 指導者養成状況およびJAAFエデュケーターの認定状況について

副委員長 沼澤 秀雄

(1) JSPO公認スポーツ指導者資格の登録者数

2023年10月1日付で6,498名の登録者がある。引き続き、指導者養成指針に従い指導者の拡充を図る。

(2) JAAFエデュケーターの認定状況

エデュケーターの認定条件を満たし各都道府県で活動されている方は計40名、エデュケーター候補は計48名である。エデュケーターを配置できれば、都道府県でそうした方々にスタートコーチ養成にあたっていただける。2024年度中に各都道府県に1名以上のエデュケーターを配置していただきたい。

3. 指導者養成関連事業の事例紹介

事例紹介：福岡陸上競技協会 井上 要
岩手陸上競技協会 山内 弘文
指導者養成委員会 三輪 亮介

聞き手：ディレクター 岸 政智

(1) 指導者養成に関して 井上 要

「強化と連携して陸上教室もやっている。普及部でできることといたら、指導者をどう育てるか、指導者資格を紐付けしていくとか。我々の方で各地区へ行き、陸上の楽しさやこんな指導法があるというのを広報してまわることが計画し、現在も行っている。指導者に対しては、2017年から毎年12月ぐらいに講師を呼び研修会を行っている。帝京ラグビー部の管理栄養士、早稲田大学の栄養学の講師、またガバナンス強化とハラスメント防止について学ぶため、清水真法副委員長も招いた。」

(2) 普及事業に関して 山内 弘文

岩手ドリーム陸上教室等の事例紹介をしながら、実施するうえで改善した点とイベントの周知方法についての紹介があった。「とにかく陸上ができる環境づくりと“鮭型”循環サイクルを大切にしている。教えた子どもたちが指導者になって少しずつ戻ってきている。そのような循環を大切にしたい。陸上競技だけでなく、地域とつながって地域が元気になるような取り組みをしていきたいと思って進めている。」

(3) 地域移行に関して 三輪 亮介

ご自身の立場から見た地域連携、地域移行に関する情報の共有と三重協協がこれまで進めてきた事例の紹介があった。「行政の動きを待っていても始まらない。地域の状況が違すぎて、正解がないというのが現状。情報収集には、ホームページやフェイスブック等で部活動の地域移行のグループのことを調べ、一番ホットな事例を知ることができる。アプリで自分からも部活動地域移行の情報をどんどん発信していきたいという思いでやっている。」

4. グループディスカッションによる情報交換

進行：森 健一

セッション①：

『コーチ資格養成講習会の開催と運営について
～より良い学びの環境づくりにむけて～』

◇グループ

資格取得のメリットを出すために、継続した学びの場の提供というところで、資格を取って終わりではなく、その後の養成からさらに育成も含めてリードしていただきたい。

審判（C級）も一緒に取得できるシステムなどがあると、アスレティックファミリーの拡大につながるのではないかと。

セッション②：

『東京2025世界陸上を意識した各地域での取り組み
～2025年以降をどのように盛り上げるか～』

◇グループ

各地域で開催されている他のイベント（お祭りなど）と絡めて、陸上向けのイベントをすることで、陸上競技を経験したことがない人も巻き込んでいく。

秋田県ではスタートの合図を電子音で子どもたちに体験してもらっている。

◇グループ

まず競技場に足を運んで貰う。競技場の広さを実感してもらいたい。見て楽しいボランティアも含めアスレティックファミリーの拡大を狙いたい。

5. 実施事業について

指導者養成課長 田中 悠二郎

(1) JAAF公認エデュケーター養成講習会

今年度、既に6月次に前期を実施しており、2024年2月17、18日に後期の開催を予定している。各都道府県のエデュケーター養成状況に鑑み、積極的に推薦をあげていただきたい。

(2) JAAF公認コーチ（JSPO公認陸上競技コーチ3）養成講習会

既に1会場終了しており、引き続き2会場実施していく。来年度は、味の素ナショナルトレーニングセンターを会場として確保した上、準備を進めていきたい。各協協においては、受講者の推薦を最大4名の枠でお願いしたい。

(3) JAAF公認ジュニアコーチ（同 コーチ1）養成講習会

今後開催される会場も含め29会場で開催。多くの会場で多大なご協力、ご尽力をいただき感謝申し上げます。来年度は、大きな変更はなく都道府県での実施日数・運営方法については、今年度同様と考えている。

(4) JAAF公認スタートコーチ（同スタートコーチ）養成講習会

今後開催される会場も含めて38会場で開催。来年度については、大きな変更なく開催会場の募集などを考えている。

(5) 日清食品カップ小学生陸上競技交流大会

都道府県陸協の皆さまの最大限のご尽力ご理解を得て、久しぶりに制限の少ない中で無事に開催できた。

今回、新たに指導者交流会の試みやフレンドシップパーティーをグランドレベルで実施できたことが収穫であった。

来年度も今年度と同様の形で実施を検討したい。

6. 普及育成事業

日本陸連主催イベントおよびグランプリシリーズのG1大会（織田記念/静岡国際/木南記念）において都道府県協協と一緒に運営を行い、参加者の集客を含め、ご尽力いただきましたことに感謝申し上げます。

来年度も状況に応じ、都道府県で行われている主催大会でも普及プログラムを実施するなど、都道府県協協のみならずと連携を図り、盛り上げていきたい。

陸連の主催行事では、科学委員会と一緒に、元トップアスリートの協力を受けながら、東京と群馬でイベントを2回開催した。

(7) エデュケーター養成講習会

2024年2月に味の素ナショナルトレーニングセンターで開催を予定している。受講条件とエデュケーター及びエデュケーター候補の配置状況を確認の上、推薦者を積極的にあげていただきたい。

6. 2024年度の都道府県協協への依頼と調査、その他連絡事項

(1) JAAF公認コーチ受講推薦

陸上競技コーチ3の受講希望調査は、昨年度から縛りが入っているが、ジュニアコーチの有資格者であること。ご注意願いたい。

(2) JAAF公認ジュニアコーチ・スタートコーチ開催会場の希望調査

ジュニアコーチに関しては、7月以降で開催を検討していただきたい。ただし、スタートコーチは6月1日以降で。

(3) JSPO公認指導者管理システム管理者登録

資格更新研修。

(4) その他

リレー種目・駅伝競技におけるユニフォームのルール解釈。

2025年度から、登録制度が次のステップに移る。中学生以下が所属するクラブ、団体。指導者資格のスタートコーチ以上と審判資格を保有した方、兼務でも良いが、いずれにしても資格保有者が必ずいる必要がある。こうした条件の変更に備えて、エデュケーター、ジュニアコーチ、スタートコーチなどの養成計画を検討していただきたい。

7. おわりに（閉会）

副委員長 桜井 智野風

皆さんの意見を聞きながら進めていかなければならないところがたくさんある。このあとフランスはパリの五輪、パラリンピック。さらに世界陸上、そしてアジア大会。皆さんと共にまた種目が大きく伸びる時期に相当する。共に手を携えていきたい。

第50回日本陸上競技連盟トレーナー研修会開催報告

日本陸連トレーナー部運営部員 廣重陽介

第50回日本陸上競技連盟トレーナー研修会を2024年1月8日（月・祝）に、オンラインで開催しました。今回は、「陸上競技に関する多様なサポートの模索」をテーマに、陸上競技に関わるトレーナーとして、やるべきこと、できること、注意すべきことを考える機会としました。

午前中のセッションでは、昨年より医事委員長に就任した真鍋知宏委員長（慶応義塾大学）より、世界アンチ・ドーピング機構が公開した2024年禁止物質リストについての解説をいただきました。また、就任のご挨拶もいただき、医事委員会として医師とトレーナーの協力体制の強化についてのお話もいただきました。続いて、8月に開催された世界選手権、9月に開催されたアジア大会における日本代表への帯同報告が、帯同を務めた砂川祐輝運営部員（Well鍼灸整体・ピラティス）、早野健太郎

部員（株式会社Does）より行われました。大会中、前後も含めた活動内容、代表トレーナー間や医師・パーソナルトレーナーと代表トレーナーの連携の実際、症例報告などご講演いただきました。午前中最後は、今年度のトレーナー部の活動報告として、アウトリーチ活動および救護記録について廣重陽介運営部員（帝京大学）が発表しました。アウトリーチ活動については、現場の選手や指導者、保護者が知りたい情報や情報を得るための手段は何か？などの調査報告があり、トレーナーの情報発信の価値について示されました。救護記録については、今年度トレーナー部が救護活動を実施した6大会における救護件数やその重症度、搬送の有無など、今後の救護活動に活用可能な情報提供がなされました。

午後の部は最初に、スポンサープレゼンテーションとして、オフィシャルスポンサーである大塚製薬の保土田様より、免疫機能やその機能低下を予防するコンディショニングについての知見および製品情報のご提供をいただきました。次に、本研修会のメインテーマである「競技者に対するメンタルサポート」について、

医事委員会の山本宏明副委員長（北里大学）にご講義いただきました。アスリートのメンタルヘルスの実態やその問題の理解、トレーナーが対応可能なサポート等を、IOC Mental Health Action Planを踏まえ、大変分かりやすくご講義いただきました。最後に松下美穂運営部員（森ノ宮医療学園専門学校）より「体表解剖に基づく傷害評価～治療・処置における安全性確保～」のタイトルにてご講義いただきました。機能解剖学の知見や触診能力を高めることにより、治療効果を高め、介入によって起こりうるリスクを減らしうることを多くの事例や分かりやすいイラストを用いてご講演いただきました。

今後も定期的な研修会の実施により、陸上競技のトレーナーに関わる継続的な見識・スキルの向上を目指したいと考えています。

～かなり見逃されやすい病態～ **疲労骨折**

- 発症初期は痛みが強くない。
(がまんすることができる。)
- 痛みを感じる位置と骨折部位が一致しないことが多い。
- 部位によっては腫脹が出現しない。腫脹に気がつかない。
- レントゲンに映るまでに時間がかかる。

メンタルヘルス支援：予防～発見～治療開始

メンタルヘルスの専門家以外の方の力が大きい
アスリートに関わる誰もが助けを提供することができる

予防的・基本的な要素

メンタルヘルスライターの構築

個々のアスリートの育成とスキルの習得

メンタルヘルスのスクリーニングとフィードバック

指示的(危機的状況にある場合)予防の要素

早期発見と識別(ナビゲーターによる)

早期介入

新たに発生した(例:初めての発症)、または既存のメンタルヘルスの問題に対する

専門的なメンタルヘルスクア

図の引用 IOC Mental Health In Elite Athletes Toolkit 2021
(日本語訳版)国立精神・神経医療研究センター精神保健研究所、日本オリンピック委員会 情報・医・科学部門

日本陸連栄養セミナー 2024開催要項

公益財団法人日本陸上競技連盟医事委員会は、第5回目の栄養セミナー（オンライン）を開催いたします。今回のテーマは「高校生・大学生陸上競技選手の栄養補給について考える」です。現代の学生アスリートが抱える課題を提示し、10代から成人年代にかけての身体を理解を深めた上でこの時期に必要な栄養補給についての実践的なアプローチを提案します。いま陸上競技に打ち込む学生や選手を支える皆さまにとって、知識を得るよい機会です。高校生・大学生選手はもちろんのこと、指導者、医科学スタッフ、ご家族など、選手を支える方にも広くお集まりいただきたく、皆さまのご参加をお待ちしております。

記

イベント名：日本陸連栄養セミナー 2024

主催：公益財団法人日本陸上競技連盟

日時：2024年4月7日（日）13：00～16：00

会場：オンライン開催（zoom）

テーマ：高校生・大学生陸上競技選手の栄養補給について考える

内容：
・高校生の貧血状況について
・U20オリンピック育成競技者の栄養摂取状況
・エネルギー不足が競技者に及ぼす影響について
・トップアスリートから～学生時代の食事で大切にしてほしいこと～
・高校生・大学生のための栄養補給について など

参加資格：大学生・高校生陸上競技選手、成長期にある陸上競技選手、陸上競技選手のご家族、陸上競技の指導や栄養サポート・医科学サポートに携わる方、都道府県陸上競技協会関係者

定員：150名

申込期間：2024年3月1日（金）～ ※定員になり次第締め切らせていただきます

申込方法：Web申込受付。※詳細は後日HPや公式Xで告知予定

参加費：無料



問合せ先：日本陸上競技連盟医事委員会 スポーツ栄養部
medical@jaaf.or.jp



大会観戦ガイド

第107回日本陸上競技選手権大会・20km 競歩 兼 パリ2024 オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会 第35回 U20 選抜競歩大会

- ▼期日：2024年2月18日（日）
- ▼コース：六甲アイランド甲南大学西側20kmコース（WA 認証 日本陸連公認コース）
※このコースは、5km,10km,15km,20km の記録が公認される。ただし、各種目の距離を完歩した競技者が対象。
- ▼競技開始/制限時刻：
(1)日本選手権男子 20km 競歩 8時50分/10時22分
(2)日本選手権女子 20km 競歩 10時35分/12時24分
(3)U20選抜男子 10km 競歩 12時30分/13時19分
(4)U20選抜女子 10km 競歩 13時25分/14時19分
- ▼問合せ先：【申込・大会全般について 日本陸上競技連盟】〒160-0013 東京都新宿区霞ヶ丘町4-2 JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階 TEL：050-1746-8410（土・日祝日を除く10：00～18：00）
【競技運営について 兵庫陸上競技協会】〒651-0076 神戸市中央区吾妻通4丁目1-6 神戸市生涯学習センター内 TEL：078-231-1771（土・日祝日を除く10：00～17：00）
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1803/>



写真：フォート・キシモト

第107回 日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走 第39回 U20日本陸上競技選手権大会 クロスカントリー競走 兼 ベオグラード2024世界クロスカントリー選手権大会 日本代表選手選考会

- ▼期日：2024年2月25日（日）
- ▼場所：国営海の中道海浜公園クロスカントリーコース（福岡市東区西戸崎）

- ▼種目/距離/スタート：①U20女子 6km 12:50（U20日本選手権・日本代表選手選考種目）②U20男子 8km 13:15（U20日本選手権・日本代表選手選考種目）③シニア女子 8km 13:50（日本選手権・日本代表選手選考種目）④シニア男子 10km 14:25（日本選手権・日本代表選手選考種目）
- ▼問合せ先：【福岡クロカン事務局】〒810-0004 福岡市中央区渡辺通1-12-9 フジビル3F 福岡クロカン事務局 TEL：092-738-2180 FAX：092-738-2243
【土・日・祝日、年末年始（12/28～1/5）を除く10：00～12：00/13：00～18：00】
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1813/>

名古屋ウィメンズマラソン2024 兼ジャパンマラソンチャンピオンシップシリーズ・GS 兼 マラソングランドチャンピオンシップ ファイナルチャレンジ（女子） ～パリ2024オリンピック競技大会 日本代表選手選考競技会～

- ▼期日：2024年3月10日（日）9：10スタート（※日本時間）
- ▼コース：名古屋ウィメンズマラソンコース
【バンテリンドーム ナゴヤ発着、日本陸上競技連盟、WA/AIMS公認コース】
- ▼種目：女子マラソン
- ▼申し込みに関する問合せ：【日本国内在住者】マラソンフェスティバル ナゴヤ・愛知ランナーコールセンター TEL：0570-550661 受付時間 平日10：00～17：00
【海外在住者 および 英語でのエントリー手続きをご希望の方】名古屋ウィメンズマラソン2024 問い合わせデスク E-mail nagoyawm2024@gmt.jtb.jp
受付時間 平日10：00～17：00（日本時間）
- ▼大会ページ：
<https://www.jaaf.or.jp/competition/detail/1821/>



写真：フォート・キシモト

事務局からのお知らせ

◆◆能登半島地震で被害に遭われた皆様へ／本連盟の対応について◆◆

このたびの能登半島地震により亡くなられた方々のご冥福を心からお祈りしますとともに、被害に遭われた皆様にお見舞い申し上げます。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19335/>



◆◆日本陸上競技連盟アスリート委員会「能登半島地震復興支援チャリティーオークション」の開催について◆◆

日本陸上競技連盟アスリート委員会は、パリュエンズジャパン株式会社と連携し、能登半島地震復興支援のためのチャリティーオークションを開催いたします。このオークションの収益は、日本赤十字社などを通じて被災地の救援に役立てていただく予定です。

【開催期間】2024年2月12日(月)18時00分～

2024年3月3日(日)22時00分

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19415/>



日本陸上競技連盟 アスリート委員会

**能登半島地震復興支援
チャリティーオークション**

開催期間 2024年2月12日(月)18時00分～3月3日(日)22時00分

◆◆能登半島地震による被災地・被災者への義援金の募集についてのおお願い◆◆

日本陸上競技連盟では、陸上界として被災地および被災された方々の支援、災害対応や復興のお役に立てるよう、義援金を募集します。皆様からお寄せいただきました義援金は、日本赤十字社に「令和6年能登半島地震災害義援金」として寄付します。

【受付期間】2024年1月23日(火)～2024年3月31日(日)

▼詳細はこちら <https://www.jaaf.or.jp/news/article/19421/>



◆◆JMCシリーズⅢアワード開催！
3代目のシリーズチャンピオンは誰の手に!?◆◆

この度、「JMCシリーズⅢアワード」を3月25日(月)に開催することが決定しましたので、お知らせいたします。

JMCアワードでは、シリーズⅢ最終戦となる男子「東京マラソン2024」女子「名古屋ウィメンズマラソン2024」終了後に確定するJMCランキングの男子1～8位、女子1～8位の選手を表彰いたします。

▼詳細はこちら

<https://www.jaaf.or.jp/news/article/19418/>



▼JMCシリーズ特設サイト

<https://www.jaaf.or.jp/jmc-series/>



**JAPAN MARATHON
CHAMPIONSHIP SERIES**

JMCシリーズⅢアワード

2024.3.25(MON) 開催

陸連時報編集委員

◇編集委員

- 尾縣 貢 (陸連会長)
- 有森 裕子 (陸連副会長)
- 風間 明 (陸連副会長)
- 室城 信之 (陸連副会長)
- 田崎 博道 (陸連専務理事)
- 山崎 一彦 (陸連強化委員長)
- 鈴木 英穂 (陸連事務局長)
- 石井 亮 (陸上競技マガジン編集長)

◇時報編集室責任者

- 石井 朗生
- ◇時報編集担当
- 日本陸連 広報課

陸連時報編集室

〒160-0013
東京都新宿区霞ヶ丘町4-2
JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE 9階
日本陸上競技連盟内
TEL : 050-1746-8410
FAX : 050-3588-1869